



新京敷島地区難民収容所

6、7月、北の大地に春と夏が一
気に訪れます。桔梗、おみなえし、
しろわれもこう…。草原は一面の
お花畠にかわり、真っ青な空が地
平線の果てまでつづくのです。



二月の満州はいちばん寒い時期です。
氷点下二〇三十度の日がつづきます。

終戦当時は出入りがはげしかった難民収容所も、冬の訪れとともに
静かになり、今はひつそりとしています。子どもたちのかん高い泣き
声や笑い声はうそのように消え、さらさらした雪が校舎のあちらこち
らに吹きだまつては、突風に舞いあがつてあとかたもなくなります。
収容所にたどり着いた人たちは、疲れと栄養失調と病気、とくに発
疹チフスのため、たつた三〇四か月のあいだに半分以上もの人が死ん
でしまいました。これに驚いた新京敷島地区日本人会有志の人たちが、
おかゆの炊き出しをはじめてくれました。